

# 金 日 成

わが革命における  
チュチェについて

3

全世界の労働者団結せよ！

# 金 日 成

わが革命における  
チュチェについて

3

朝鮮・平壤

外国文出版社

1982



## 目次

ペルーの新聞『エクスプレス』主筆夫妻との談話

(一九七四年六月二日) …… 一

党活動をいっそう強化することについて

——党組織活動家講習会の参加者に送った書簡——

(一九七四年七月三十一日) …… 一五

- 一 党隊列と党組織をいっそう強化することについて …… 一六
- 二 党の大衆路線を貫徹することについて …… 二三
- 三 社会主義建設にたいする党の指導を強化することについて …… 二六
- 四 党の活動方法と活動作風を改善することについて …… 三三

パナマ記者代表团との談話(抜粋)

(一九七四年九月一日) …… 三六

ベニン政府機関紙『エヒズ』社長との談話

(一九七四年九月十九日) …… 五

オーストラリア記者の質問にたいする回答(抜粋)

(一九七四年十一月四日) …… 六

農村テーゼの完全な実現のために提起されるいくつかの問題

—— 朝鮮民主主義人民共和国最高人民会議第五期第四回会議で

おこなった演説 ——

(一九七四年十一月二十九日) …… 七

三大革命を力強く展開して社会主義建設をいっそう促進しよう

—— 工業部門活動者会議でおこなった演説 ——

(一九七五年三月三日) …… 一〇五

一 三大革命の歴史的必然性 …… 一〇六

二 三大革命グループ運動の発端 …… 一二三

三 三大革命でおさめた成果 …… 一二五

四 社会主義建設を促進するためのいくつかの課題 …… 一二三

目次

全般的十一年制義務教育を成功裏に実施するために

——最高人民會議第五期第五回會議でおこなった演説——

(一九七五年四月十日)……………一四

インド週刊紙『ブリッツ』責任主筆の質問にたいする回答(抜粋)

(一九七五年八月六日)……………一五

朝鮮労働党創立三十周年に際して

——朝鮮労働党創立三十周年記念大会でおこなった報告——

(一九七五年十月九日)……………一七

一 自主、独立、社会主義建設のための朝鮮労働党の闘争……………一四

二 三大革命をさらに力強くおし進めよう……………一六

三 祖国の自主的平和統一を達成しよう……………一九

四 自主性を擁護する世界の人民と団結しよう……………二〇

イタリア国際関係研究所書記長の質問にたいする回答

(一九七五年十月十三日)……………二七

目次

オーストラリアの作家・記者ウィルフレッド・  
バーチエットとの談話

(一九七五年十月二十一日) …… 二六

日本の学者一行との談話(抜粋)

(一九七五年十一月六日) …… 二四〇

ベニン公報・民族方向省研究計画局長の質問にたいする回答

(一九七五年十一月十六日) …… 二六二

非同盟運動はわれわれの時代の強大な反帝革命勢力である

—— アルゼンチンで発行される雑誌『第三世界便覧』創刊号に  
発表した論文 ——

(一九七五年十二月十六日) …… 二七〇

『世界』編集長との談話

(一九七六年三月二十八日) …… 二七五

# 社会主義教育にかんするテーゼ

——朝鮮労働党中央委員会第五期第十四回総会で発表——

(一九七七年九月五日) …… 二九九

## 次

## 目

|   |                      |     |
|---|----------------------|-----|
| 一 | 社会主義教育学の基本原理         | 三〇一 |
| 二 | 社会主義教育の内容            | 三一一 |
| 1 | 政治・思想教育              | 三一一 |
| 2 | 科学・技術教育              | 三二五 |
| 3 | 体育                   | 三二七 |
| 三 | 社会主義教育の方法            | 三三八 |
| 1 | 開発教授・教育              | 三三九 |
| 2 | 理論教育と実践教育、教育と生産労働の結合 | 三三二 |
| 3 | 組織生活、社会・政治活動の強化      | 三三三 |
| 4 | 学校教育と社会教育の結合         | 三三五 |
| 5 | 就学前教育、学校教育、成人教育の並行   | 三三六 |
| 四 | わが国の社会主義教育制度         | 三三九 |
| 1 | 全般的義務教育制度            | 三三〇 |
| 2 | 全般的無料教育制度            | 三三三 |
| 3 | 働きながら学ぶ教育制度          | 三三四 |



## 次

## 人民政權をいっそう強化しよう

——朝鮮民主主義人民共和国最高人民會議第六期第一回會議で

おこなった演説——

(一九七七年十二月十五日)……………三五

## 目

一 国家と社会の真の主人は勤労人民大衆である……………三五三

二 人民政權は勤労人民大衆に奉仕すべきである……………三五七

三 官僚主義に反対しよう……………三六三

## 主体思想の旗を高くかかげて、社会主義建設をさらに促進しよう

——朝鮮民主主義人民共和国創建三十周年記念中央慶祝大会でおこなった報告——

(一九七八年九月九日)……………三七三

|                                         |     |
|-----------------------------------------|-----|
| 一 国家活動に主体思想を徹底的に具現し、三大革命を力強くおし進めよう      | 三七五 |
| 二 「二つの朝鮮」策動を粉碎し、祖国を平和的に統一しよう            | 三八八 |
| 三 新興勢力諸国は団結し、帝国主義をはじめあらゆる支配主義に反対してたたかおう | 三九四 |

ベニン人民共和国内務安全・民族方向省研究計画局長の質問にたいする回答（抜粋）

（一九七九年六月三十日）……………四〇三

朝鮮労働党第六回大会でおこなった中央委員会の活動報告

（一九八〇年十月十日）……………四二三

|                          |     |
|--------------------------|-----|
| 一 三大革命の輝かしい勝利            | 四二四 |
| 1 三大革命路線を具現するためのわが党のたたかい | 四二四 |
| 2 思想・技術・文化革命の成果          | 四二八 |
| 3 国家社会制度の強化発展            | 四三九 |
| 二 全社会を主体思想化しよう           | 四三四 |
| 1 全社会の主体思想化は朝鮮革命の総体的任務   | 四三四 |

# 目次

|   |                      |     |
|---|----------------------|-----|
| 2 | 全社会の革命化、労働者階級化、インテリ化 | 四三六 |
| 3 | 人民経済の主体化、現代化、科学化     | 四四四 |
| 4 | 一九八〇年代の社会主義経済建設の主要課題 | 四五二 |
| 三 | 祖国の自主的平和統一を実現しよう     | 四五九 |
| 四 | 反帝・自主勢力の団結を強化しよう     | 四七八 |
| 五 | 党活動を強化しよう            | 四九二 |

## ペルーの新聞『エクスプレス』主筆夫妻との談話

(一九七四年六月二日)

わたしは、きょう、はるばるペルーから来たあなたにたにお会いできてたいへんうれしく思います。

あなたがたのわが国訪問を熱烈に歓迎します。

あなたがたも参観を通じて感じたことと思いますが、わが国は現在、建設の真つ最中です。今われわれは多くの建設を進めています。われわれがあまり欲ばって建設しているのではないかという感もあります。

あなたがたは、朝鮮で子供たちが幸せに育っているのを見て、一番印象づよかったと言いましたが、事実、わが国では今子供たちのために多額の金を使っています。わが国では国家予算の多くの部分を子供の保育と教育にふり当てています。現在わが国では、託児所、幼稚園で保育している子供の数が三百五十万にもものほり、人民学校、高等中学校、大学に通っている学生は四百五十万以上にあります。託児所、幼稚園で保育している子供と各級学校で勉強している学生を全部合わせれば八百万以上になります。

共和国北半部の人口は約千五百万ですが、託児所、幼稚園で保育する子供と学校で勉強する学生は八百万以上もいます。こんなに大勢の子供と学生を国家の費用で保育し勉強させるのですから、多少負担が重

いと言えます。わが国ほど子供のために多額の資金を支出する国はおそらくないでしょう。

子供を国家の費用で保育し勉強させるのは現在では多少負担になりますが、将来のことを考えればよいことです。現在は少し苦しいけれども、将来は幸せになるでしょう。学生を勉強させれば、将来必ず素晴らしい結果をもたらします。

わたしは、あなたがわが国の教育政策を高く評価してくれたことにたいし謝意を表します。

あなたがただけでなく、アフリカや中近東をはじめ世界の多くの国の国家首班や党代表団がわが国に来て一番強く感じるのも、わが国の教育政策だと言います。資本主義国の日本から来る社会党や自民党の人たちも、わが国の教育政策を支持しています。日本の与党である自民党の人たちもわが国に来て、われわれが託児所、幼稚園からはじまって人民学校、高等中学校、高等専門学校、大学その他の各級教育機関で人口の半数にのぼる子供と学生を国家の費用で保育し勉強させているのを見て大いに感嘆しています。

わが国では学生だけでなく、政務院の閣僚をはじめ幹部もすべて学習しています。幹部まで合わせれば、わが国で学習をしている人の数は学生数よりもはるかに多くなります。数年前訪朝した日本の革新市長たちが、わが国の全人民教育制度について話して欲しいというので、わたしが数時間にわたって話したことがあります。

あなたがたは革命をおこなうには幹部が重要だと述べましたが、まったくその通りです。幹部がすべての問題を決定します。りっぱな幹部がいてこそ社会が発展し、国が繁栄します。

貴国の大学には人文科学系統が多いそうですが、わが国では人文科学を制限しています。わが国の大学では文学、法学をはじめ社会科学を専攻する人は大学生数の三〇%を越えません。

かつて日本帝国主義者は、朝鮮を占領して、朝鮮人にはただ法学や医学を少々学ばせ、一部の人に弁護士や医師、教員などをやらせた程度にすぎず、技術はなに一つ教えませんでした。解放後調査したところによれば、朝鮮人で日本の技術大学を出た人は数十人しかいませんでした。日本帝国主義者は朝鮮人に機関車の運転技術さえ教えなかったのです。日本帝国主義者は機関車は日本人に運転させ、朝鮮人にはかまたきを手伝わせるくらいなものでした。駅長も日本人がやりました。朝鮮人の機関士は幾人もいませんでした。これだけを見ても、日本帝国主義者がどんなに悪者であったかが分かります。

解放直後、わが国には民族幹部がいませんでした。機関士がいなくて数か月間も汽車を動かさない有様でした。それでわれわれは、外国に実習生を送って習って来させなければなりませんでした。

わが国とペルーとのあいだにはまだ外交関係が結ばれていません。しかし、われわれはペルー人民の闘争をつねに注視しています。

ペルーのベラスコ大統領閣下は勇敢な人です。かれはペルー人民のために多くの仕事をしています。ベラスコ大統領閣下は二百海里領海権を主張しています。数年前まではラテンアメリカ諸国だけが二百海里領海権を主張していましたが、今では世界的な範囲にわたってそれが主張されています。現在では、アフリカ諸国もすべて二百海里領海権または経済水域権を主張しています。

あなたがたの主張する路線、すなわちベラスコ大統領の唱える二百海里領海権にかんする主張は、今日世界的な範囲で支持をえています。今は第三世界が団結しているので、第三世界の人民が強く主張すれば強大国といえどもどうしようありません。通信によると、日本も二百海里経済水域を認めないことには世界で孤立するのではないかと恐れ、それを認めようとしているようです。日本は海洋業で多大な利益を

上げていますが、現在はやむなく経済水域二百海里の主張に折れてました。今なお、アメリカをはじめ数か国が経済水域二百海里の問題にたいして条件をもち出しています。世界の大多数の国が二百海里経済水域を主張している状況のもとで、かれらもそれに応じるほか手はないでしょう。この度ラテンアメリカのベネズエラで開かれる国際海洋法会議は成功裏に進められるものと思います。おそらくこの会議は大きな波紋を投げることでしょう。

二百海里領海権にかんする主張は貴国が先に提唱したものであり、自主の旗をかかげたものです。これはきわめて正当な政策です。この政策は、自国の資源を保護し、自民族の独立を守るうえに大いに寄与しています。第三世界がすべて貴国のこの模範にしたがっています。

貴国では、アメリカの船が海岸近くに來て魚をとると拿捕して罰金を取るとのことですが、それは非常に勇敢で大胆な行動であり、全世界がすべて見習うべきことです。われわれはあなたがたの立場を絶対支持し、高く評価しています。

あなたがたは自主性の旗を高くかかげていますが、それはきわめて重要なことです。

今や全世界が自主性を求めています。第三世界の諸国は言うまでもなく、第二世界の諸国も自主性を求めています。われわれの言う第二世界とはフランス、カナダのような国ですが、これらの国もそれぞれ自主性を求めています。ノルウェー、スウェーデン、デンマーク、フィンランドなどの北欧諸国とラテンアメリカ諸国も自主性の原則を主張しています。今日、ラテンアメリカではペルーも自主の道を歩んでおり、アルゼンチンも自主の道を歩んでいます。

社会主義諸国も自主性を求めています。社会主義・共産主義をめざす革命闘争は、人民が自主的に生き

るためにおこなうのであって、他人に束縛されて生きるためにおこなうではありません。マルクスは『共產党宣言』のなかで、抑圧の鉄鎖を断ち切れと述べていますが、人民が抑圧の鉄鎖を断ち切った後また別の形の鉄鎖、大国の統制下に入るくらいなら何のために革命をする必要があるのでしょうか。

われわれは、徹底した自主性の原則を主張します。

われわれは四つの原則にもとづいて社会主義諸国と団結しています。四つの原則というのは、社会主義国が帝国主義に反対すること、植民地や半植民地諸国での民族解放運動と資本主義諸国での労働運動を支持すること、社会主義・共産主義建設をつづけること、内政不干涉、相互尊重、平等と互恵の原則を守ることです。われわれは内政不干涉の原則を主張します。

社会主義国は、他の国がどんな路線をとろうとそれに干涉すべきではありません。一つの家庭のなかでも、朝コーヒーを飲みたければコーヒーを飲み、お茶を飲みたければお茶を飲むといったように、誰でも好きなようにさせるべきであって、いちいちくちばしを入れたのでは家庭がうまくいきません。

われわれは絶対に他国の内政に干涉しません。われわれは、社会主義に反対し反革命の道を進まない限り、他の社会主義国を非難したりしません。他の社会主義国もわが国の内政に干涉しておらず、もし干涉しようとしてもわれわれがそれを許しません。このように互いに尊重しあい、内政に干涉しないので互いに仲よくつき合っています。われわれは今、すべての社会主義国との関係がうまくいっています。

現在世界の多くの国が自主性を求めており、自主の道に進んでいるので、われわれは現在の時代を自主性の時代と言っています。われわれは世界各国の多くの人と会ってみましたが、そのほとんどがこのような見解をもっています。自主性を求め、自主の道に進もうとするのは、今日、一つの思潮となっています。



あなたがたはわが国が自主性を確固と堅持している模範の国だと言いましたが、それについては、わが国を訪問したアメリカの『ニューヨーク・タイムズ』紙の記者も認めたところです。かれは、朝鮮民主主義人民共和国は一番自主性の強い国であり、反米思想もきわめて強く、自己の哲学をもっていると言っていました。

われわれは、帝国主義者がわが国にたいして封じ込め政策をとっている状況のもとで、終始一貫自主性を堅持してきましたが、もちろん一時は多くの困難にぶつかりました。しかし、われわれはそれに耐えぬいたばかりでなく、はるかに強大になりました。帝国主義者が封じ込め政策を取れば取るほど、朝鮮人民の自覚と闘争の熱意はいちだんと高まりました。現在わが国の事情ははるかに好転しました。対外貿易を例にとっても、以前は社会主義諸国とだけ貿易をおこなっていましたが、今では他の多くの国と貿易をおこなっています。わが国の国際的地位がますます高まるにつれて、われわれとの貿易を望む国も次第に増えていきます。

アメリカ帝国主義者は、現在もわが国を経済的に封じ込めようと策動していますが、それは無駄なことです。

実例を一つあげましょう。

最近、わが国と日本とのあいだに経済上の取引がやや増えはじめました。もちろん国家的規模ではなく、個人会社との取引がおこなわれています。最近、われわれは鉄鋼業に現代技術を取り入れるため日本に二千立方メートル溶鉱炉二基を注文しました。ところが北朝鮮が溶鉱炉設備を購入できないようにしてくれという南朝鮮反動の願いを入れたアメリカ帝国主義者が日本にわれわれとの約束を取り消すよう圧力をか